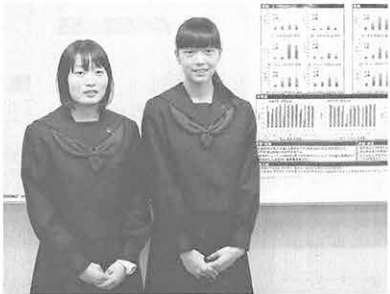


県教育長賞

「富士山梨ヶ原の野焼きによる
土壌動物の多様性変化」
山梨英和高校自然科学部



地中卵の減少限定的

入部後、約一年半かけて二人三脚で取り組んできた研究。受賞を聞き、興石葵さん(17)と相原乙葉さん(17)は「信じられない」と顔を見合わせたという。

山梨英和高校の自然科学部では、ダニやトビムシなどの土壌動物を対象とした環境調査を続けている。2人は、富士吉田市と山中湖村にまたがる北富士演習場(梨ヶ原)で行われている

野焼きに着目。現地から縦横30センチ、深さ10センチの土を掘り出して持ち帰り、顕微鏡を使って土中に生息するトビムシなどを1匹ずつ数える地道な作業を続けた。

野焼きの前と1週間後を比較した結果、土壌動物の数は場所によって半減することを確認。一方で、野焼きの影響を受けない地中の卵の種類は減少は限定的で、「野焼きによって生物多様性が破壊されない」と結論付けた。このほか、農作物に被害をもたらす害虫類の約半数種が死滅していたことも突き止めた。

代表の興石さんは「野焼きの風習は日本各地に残っている。他の地点でもデータを採取し、より研究を深めたい」と意欲を見せた。